

政務調査の活動実績報告

議員名：久保博道

平成28年度の活動実績報告は次の通りです。

○産業振興計画について調査研究

第一期、第二期までの実績を受けて、第三期産業振興計画の1年目の進捗と促進に向け、産業成長戦略と地域アクションプランについて、可能な限り現場に出向いてヒアリングを行った。また、「拡大再生産」をキーワードとして、それを実践する「産業クラスター」の実現に向けて調査研究を行った。

○スポーツ行政の知事部局での一元化について調査研究

本県の置かれているスポーツ全般の状況を勘案した時、スポーツによって高知県を元気にするには、スポーツ行政の知事部局への一元化が最も効果的だと確信して、スポーツの取り組みの先進県である鳥取県庁や佐賀県庁に勉強に出向いた。そして、そこで学んだことをベースに、本県の「競技力の向上」「生涯スポーツの奨励」「スポーツツーリズムを通じた地域振興」についての調査研究を行った。

○南海トラフ巨大地震について調査研究

第三期の南海トラフ地震対策行動計画の「命を守る」から、「命を繋ぐ」のステージに向けて、現場に出向き自主防災組織をはじめ多くの方

から実態をお聞きをして、その上で自分なりに課題を深掘して、次への調査研究を行った。

○遅れている道路整備の財源確保についての調査研究

遅れている本県のインフラの内、特に道路の整備を進めるには予算の確保が必要である。その際に過去において道路特定財源が一般財源になったことを鑑みて、改めて名称は道路特定財源と言わないまでも遅れている道路整備を進めるための道路財源の確保についての調査研究を行った。

○高知城の国宝化に向けての調査研究

全国の12城の天守の内、現在は5城の天守が国宝に認定されている。県民の誇りと観光客誘致に向けて、高知城を早期に国宝にすべく、平成28年度に教育委員会文化財課が行った調査について、次年度に向けての研究を行った。

○女性の働きやすい環境の調査研究

共働きが多い本県において、働きながら子育てをしなければならないお母さんの負担を軽減する必要がある。そのためにも、家庭・地域・職場においてその「仕組み」を構築する必要がある。特に病児・病後児保育について、施設型・訪問型・ファミリーサポートセンター型の調査研究を行った。そして、このことは本県の課題である、少子化対策につ

ながると思う。

○国際観光に関する調査研究

2020年の東京オリ・パラ時に2000万人の外国人観光客の目標が一举に4000万人に見直された。このように、今後益々、高知県をはじめ地方にも外国人観光客が周遊する。四国は一昨年6月に観光庁から広域観光周遊ルートに認定されており、本県がインバウンドの先進県になるように、昨年度に続き調査研究を行った。

○南米県人会と母県である高知県の相互交流に向けての調査研究

昨年9月に南米のアルゼンチン・パラグアイ・ブラジルの県人会を訪問し、これまでの本県からの一方的な県人会への支援ではなくて、これからは未来志向の相互交流を進めなければならないと思った。このことからパラグアイ県人会の山脇会長が帰高している機会を捉えて、高知県立大との橋渡し役を行い、実現に向けての調査研究を行った。

○災害常襲県を逆手に取った防災対策及び防災産業の調査研究

今後30年以内に70～80%で本県をはじめ太平洋岸を襲って来る南海トラフ巨大地震や毎年襲って来る台風等の災害を逆手に取って、災害対策先進県としてのシンポジウムの開催や防災産業の促進に向けて、昨年度に続き調査研究を行った。

○よさこい踊りの2020年オリ・パラでの演舞に向けた調査研究

観光を含む産業振興全般において大きなポテンシャルを持つよさこい踊りをオリンピック・パラリンピック等の世界の舞台でパフォーマンスできるように、昨年に続き調査研究を行った。

○教育全般についての調査研究

まずは「教育等の振興に関する施策の大綱」を実現するべく、各界各層の方々に対するヒアリングを行った。一方、障害者スポーツと合わせて競技スポーツの振興や英会話教育の充実に向けて、昨年度に続き調査研究を行った。

○福祉全般についての調査研究

保健・医療・福祉全般に向けて、様々な方とお会いしてヒアリングをしたり、当方の提案をお伝えしたり、様々な面から福祉にアプローチをした。特に全国に10年先行している高齢化の問題、例えば療養病床の問題等、本県が避けては通れない課題に対して、昨年度に続き調査研究を行った。